

令和8年度学校関係者評価結果を受けての今後の取組

自立支援局運営方針及び令和8年度組織目標に則して、今年度は以下について重点的に取り組めます。

1. 教育環境：安全で快適な施設環境を目指した取組

理療教育に必要な設備の更新、安全管理体制及び防災体制の適切な運用を継続して実施します。なお、雨漏りにつきましては、現地調査を実施し、今年度中の修繕が可能か検討いたします。また、施設設備の老朽化に伴う修繕修理につきましても、予算要求等を行い、適切に実施していきます。

2. 教育理念・目的：あはき師養成施設の将来構想への取組

国立障害者リハビリテーションセンター事業のあり方検討会報告書を踏まえ、第4期中期目標期間においては、あはき師養成施設として持続的かつ発展的な教育体制の構築を目指し、将来構想の策定を進めるとともに、理療教育事業の充実及び教育技術・教育資源の継承を推進します。

今年度は、全教官からの意見集約を行うとともに、4センターが連携して理療教育における新たな事業の可能性や、視覚障害者教育機関として継承すべき教育内容・指導技術について整理・検討します。これらの成果を将来構想の策定に反映し、さらなる発展につなげます。

3. 利用者の募集・受け入れ：利用者増に向けた取組

関係機関への訪問や郵送による募集活動を継続し、近畿地方を中心に、中国・四国・中部地方まで対象地域を広げて広報活動を実施します。市区町村、ハローワーク、病院、相談支援事業所、地域包括支援センター等に加え、視覚障害者協会、点字図書館、当事者団体等、視覚障害者に身近な関係機関・団体への広報を積極的に行います。

各種イベントへの相談ブースの出展、接し方講習会やスマホサポーター養成講座等のアウトリーチ活動を通じて、地域や関係機関に対し、当センターの機能や訓練内容を知っていただく機会を作ります。併せて X や YouTube 等を活用した情報発信を充実させ、動画や定期的な SNS 投稿に取り組むことで、利用者増につながる広報活動を推進します。

4. 施設運営：厚生労働省統合ネットワークシステムの更改に伴う取組

今年度更改された厚生労働省統合ネットワークシステムについては、視覚障害を有する教官を中心とした検討グループを設置し、施設管理室と連携しながら、これまでの利用上の課題の整理と改善要望の取りまとめを行ってきました。また、関係者へのヒアリングや現地調査を実施し、業務環境の改善及び業務効率化に向けた協議を進めています。

今後も関係機関との連携を継続し、当該システムの運用における課題の解消を図るとともに、視覚障害を有する職員を含む全ての職員が安全かつ効率的に利用できる業務環境の実現を目指します。

以上